

遊びに来てね♪

ふるさとまつり

10/23 日 in サポセン PRコーナー

毎年大好評の登録団体の
活動PRコーナーと写真展
今年もにぎやかに開催します。
ぜひお立ち寄りください！

活動PRコーナー
・サポセン室内/屋外



写真展
・サポセン屋外



サポセン室内には、登録団体のイベント情報・会員募集・ボランティア募集・PR紙など多数あります。

協働事業について（ご案内）

町では、平成16年3月に制定した自治基本条例に基づき、町民皆さんやボランティア団体等が行う様々な公益活動をまちづくりに生かす、町民と行政との協働によるまちづくりを推進しています。現在、財政的な支援としての「町民活動応援事業」、皆さんと町とのパートナーシップにより事業を実施する「まち美化アダプト制度モデル事業」及び「提案型協働事業」の3つの制度を運用しています。
詳しくは、愛川町行政推進課（046-285-6925（直通））までお問い合わせください。

あいかわ町民活動サポートセンター
〒243-0392
神奈川県愛甲郡愛川町角田251番地1
役場庁舎分館1階
TEL：046-205-1323
FAX：046-205-1324
Eメール：ai-saposen@bz01.plala.or.jp

【開所日】
◆日曜・月曜・金曜・土曜・祝日
午前9時30分から午後5時まで
◆火曜・木曜
午前9時30分から午後7時まで
【休所日】
◆毎週水曜、年末年始、施設点検日



身近な団体の活動を
随時UPしています。
ぜひアクセスください♪

さぽせん あいかわ

発行 あいかわ町民活動サポートセンター運営委員会
所在地 愛川町角田251番地1
電話 046-205-1323 FAX 046-205-1324
E-mail ai-saposen@bz01.plala.or.jp



回 覧

第19号

平成28年
10月15日発行

町民活動つなげてひろげて10周年！

サポセンは10歳を迎えました。

ありがとう 10th Anniversary



あいかわ町民活動サポートセンター（サポセン）は、平成19年3月に開所しました。ボランティアやNPOなど、各種団体による自主的かつ自立的な公益活動を住みよいまちづくりに生かすため、その活動拠点として生まれた施設です。

10年を経て、登録団体数は開所時の約4倍の146団体（平成28年9月末現在）に増えました。施設利用者も徐々に増え、フリースペースの利用や印刷機器類の利用率も高くなっています。また、登録団体向けの事業やパソコン相談室などを主催するとともに、団体に役立つ各種の情報提供をはじめ、センター内の掲示板には、登録団体による会員募集、ボランティア募集情報やイベント情報などが盛り沢山です。

10年の節目を迎え、公益活動のさらなる発展と、町民の皆様の新たな活動や交流などにお役に立つことができますよう、決意も新たに、町民活動をサポートするセンターとしての重責を果たしてまいります。今後ともよろしくお願ひします。



重い使命の サポセン丸



10周年記念対談

どこから来て どこへ行くのか



8月26日 サポセンにて

サポセンの開所10周年を記念して、3名の関係者に対談していただきました。

サポセンのこれまでの振り返りながら、これからの取り組みを考える機会となれば幸いです。

【出席者】（写真左から）

- ◇初代運営委員長 — 諏訪部 勲さん
- ◇開所以来のスタッフ — 米田 博行さん
- ◇現運営委員長（3代目）— 小倉 理男さん

*紙面の都合等により一部割愛、一部修正しています。

開所

住民と行政の思いを乗せて ゼロからのスタート

諏訪部：愛川町は平成17年、住民参加をめざして“愛づくりスクール”という名で、いくつかの地域課題の勉強会を講師を招いて開いた。翌18年は、そのテーマを「サポセン」に絞った。それがサポセンの始まりだったね。

米田：当時、町では「自治基本条例」をつくり、住民自治・住民参加を促していた。私自身も、定年後の地域での生き方を模索しはじめた時期だった。それまでは、寝に帰るだけの町だったけど（笑）。

諏訪部：そして町の呼びかけにこたえる形で、その勉強会から21名が手をあげた。運営を考える運営委員と、日常業務をするスタッフとを全員が一人二役で取り組んだ。職員まかせにしない、そんな気持ちで頑張っていたなあ。



サポセンのあゆみ

- 平成
- 17年 “愛づくりスクール” 開催
- 19年 サポセン開所
サポセンHP開設
パソコン相談開始
登録団体の交流会開始
登録団体の紹介展開始
- 21年 登録団体の活動発表開始
- 22年 パソコン相談室開始
(パソコン相談からの再スタート)
- 24年 サポセンHPリニューアル
- 25年 写真教室開催
- 28年 デザイン教室開催

米田：公民館でも活躍する人は多いが、サポセンが発足したことで、社会貢献活動などがしっかりと位置づけられるようになったと思う。

諏訪部：公民館は、もともと地域課題の解決を図ることが一つの役割であるが、現実には社会貢献をめざす活動は少ない感じだった。しかし、サポセンができたことで、利用団体の何割かはサポセンに団体登録することになり、より活動の枠が広がったと思う。



ここからスタート・サポセン開所式

運営

成長期 運営委員とスタッフでパワー全開

諏訪部：4年間運営委員長を務めて、平成23年度からは、平本幸一さんが2代目の委員長をした。熱意のある適任者だった。みんなで他市サポセンの視察などして、見えてきたものや新しい感覚が生まれてきたね。

小倉：私は、その年に運営委員になった。サポセンの大切さは理解しているつもりだったけど、最初はわからないこともあって戸惑いつつだったなあ。

米田：スタッフも徐々にレベルが上がった。日々の業務の他に、もっと任せてもらいたいという欲求が高まってきた。ホームページのリニューアルもできた。事業も試行錯誤を重ねながら充実してきたと思う。



活動

ボランティアのさざ波ひろがれ！ 愛川に



【現状と評価】

米田：登録団体数は大きく伸びたね。他方、順調に伸びていた利用者数は、東日本大震災に伴う節電要請を受けて、センターの開室時間が2割超も減ったため、ストンと落ち込んだね。今は回復しているけど。

諏訪部：10年を経て、ということで見回せば、センター内に掲示されている情報量も大幅に増えているね。掲示の方法も工夫がうかがわれて、いいと思う。主催事業も、団体支援に役立つよう努力されていると感じている。

米田：スタッフ集団は近年、技量も熱意も増している。さまざまな活動が盛り上がってきた。成熟期を迎えるサポセンが更に充実していくためには、新たな工夫が必要かもね。



【課題と抱負】

小倉：サポセンをもっとよくするためには、私は個人的には今後のサポセンの運営の手法についても考える必要があると思っているんだけど……。

諏訪部：これからのサポセンをよくするための方策は、運営の手法のほかにもいろいろあると思うので、運営委員とスタッフで意見交換するなど検討する必要はあると思います。

米田：登録団体の活性化のために交流会を充実したい。ボランティアのニーズをサポセンが把握できていないが、交流を通じて解決できる可能性もあると思う。スタッフの相談スキルアップも必要だと感じている。

諏訪部：ボランティア活動団体の高齢化が進む一方、会員を募集しても集まりにくい現状があり、新たな対応が必要になっている。

小倉：今後さらに団体活動の拠点となるよう、知名度を高めながらサポセンの利用を増やしたい。団体活動の息切れを防ぐために、いまの応援事業だけでなく、寄付金の案内なども取り組みたいと思っている。

前進すればするほど更なる課題が見えてくる（笑）。今後も団体の活性化のために、団体と公民館や団体どうしの連携強化をはじめ、より多くの支援策を展開できるようにしていきたい。

諏訪部：次の10年にも期待だね。

——（司会）ありがとうございます！！